D.WESTERN THERAPEUTICS INSTITUTE

コーポレート・プレゼンテーション資料

2026年11月

株式会社デ・ウエスタン・セラピテクス研究所

証券コード：4576

DWTIの特徴

DWTI (デューティー) とは

創薬の実績と**眼科疾患**に強みを持つ、バイオベンチャー

製品と開発品

充実したパイプライン群

基礎研究・非臨床	フェーズⅠ	フェーズⅡ	フェーズⅢ	申請・承認	上市
研究テーマは **10**テーマ以上	**2**	**2**	**4**	**1**	**2**

※化合物別、疾患別でカウント

成長戦略

① 複数のパイプラインを組み合わせ、中期的な収益を確保

② H-1337を中心に成長投資を行い、長期的な収益を最大化

目次

1. 会社概要

2. 各パイプラインの状況、研究活動

3. 成長戦略

4. 2026年12月期 見通し

1. 会社概要

会社概要・沿革

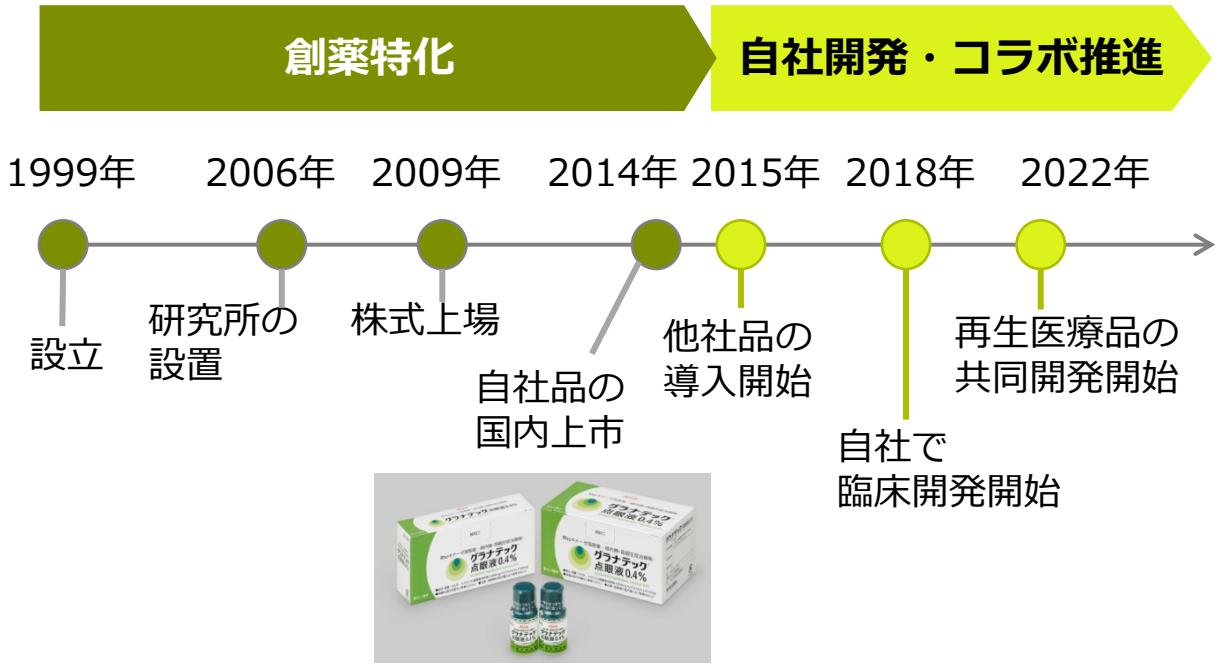
上場市場	東京証券取引所グロース市場 （証券コード：4576）
事業分野	医薬品の創薬研究開発
設立	1999年2月
資本金	850万円
役職員数	28名（連結）
事業拠点	● 本社：愛知県名古屋市 ● 研究所：三重県津市 （三重大学に産学官連携講座 「臨床創薬研究学講座」設置）
連結子会社	日本革新創薬株式会社 （略称：JIT）

2026年9月末日現在

ビジョン

日本発の画期的な新薬を世界へ

沿革



経営陣



代表取締役社長
日高 有一

金融機関にて法人営業を担当。
資金調達、経営全般、営業に精通。

企業経営
研究開発
財務・会計
資金調達
法律・リスク



取締役
松原 さや子

企業戦略やマネジメント業務に精通。資金調達や事業投資の経験を有する。

企業経営
財務・会計
資金調達



監査等委員（社外）
山田 富士雄

上場会社での豊富な実務経験並びに監査役の経験を有する。

企業経営
財務・会計
法律・リスク



監査等委員（社外）
中村 栄作

バイオベンチャー、VCでのキャリアを生かし、事業戦略、開発品の目利きに強み。ネットワークも広い。

企業経営
研究開発
資金調達
グローバル



監査等委員
中村 和史

臨床開発、事業開発の実務経験及びグローバルでのVC経験有する。

企業経営
研究開発
グローバル



監査等委員（社外）
都築伸弥

バイオに精通し、企業及び資本市場に対する分析力と専門知識を有する。IR、ネットワークに強み。

企業経営
研究開発
資金調達

化合物の沿革

【会社設立前】
【第0世代】ファスジル

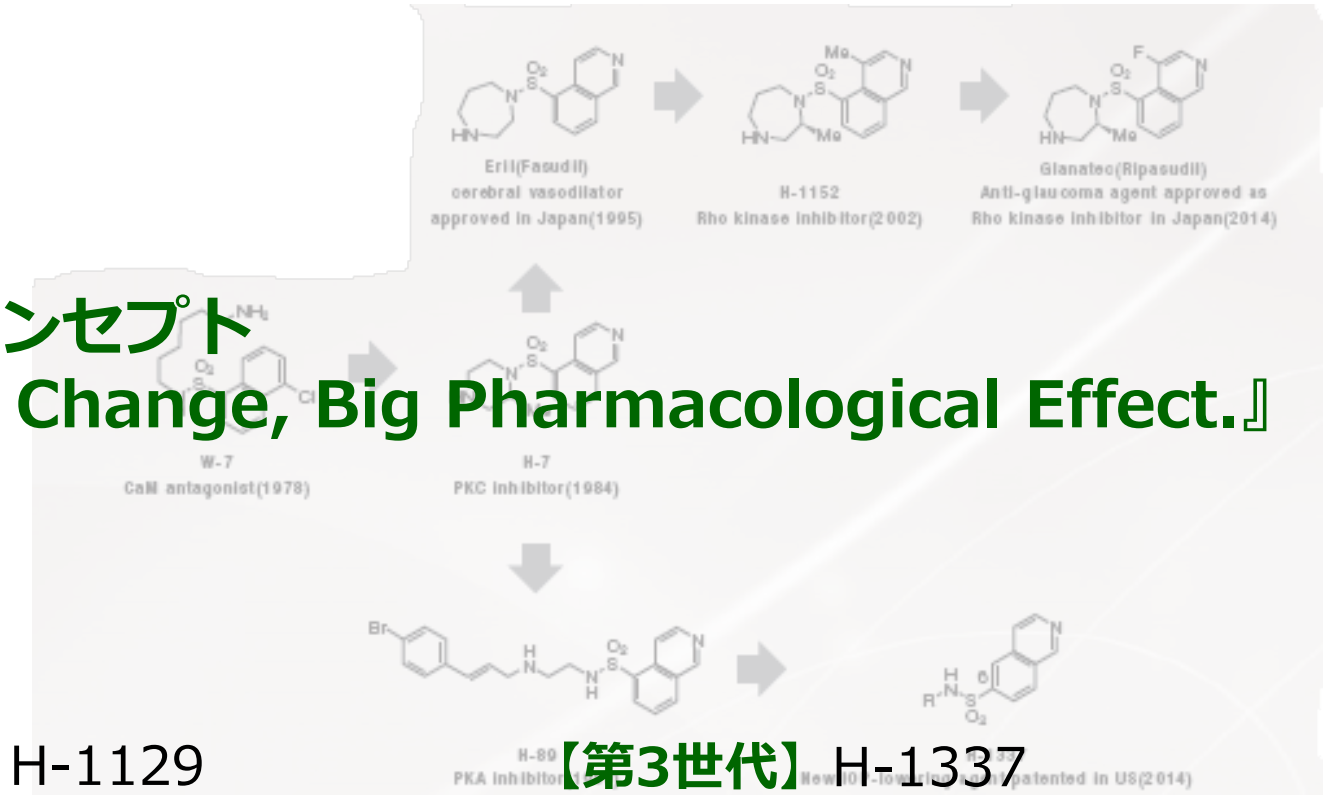
世界初のキナーゼ阻害剤
1995年上市

【第1世代】リパスジル

世界初の緑内障における
キナーゼ阻害剤
2014年上市

- 配合剤上市、適応拡大K-321

発明のコンセプト
『Small Change, Big Pharmacological Effect.』



【第2世代】H-1129

- 2019年　P3試験で開発中止
- 2025年　角結膜疾患治療薬として再開発決定

【第3世代】H-1337

初めての米国/自社開発品

- 2025年　P2b試験終了
  →P3試験準備中

基盤技術

- ✓ 当社はキナーゼ阻害剤のパイオニア
- ✓ 世界初のキナーゼ阻害剤の開発を支えた知見が、効率的に適切なキナーゼ阻害剤を創製する当社独自の創薬エンジンになっている

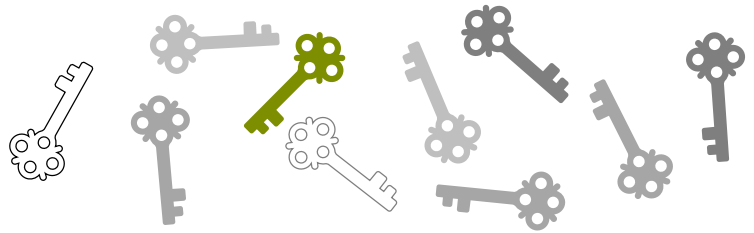
キナーゼ
（身体の中で働く酵素：約500種類）



適切なカギの創製



キナーゼ阻害剤
（異常な働きをして病気の発症・悪化を招くキナーゼに結合して抑制）



ドラッグ・ウエスタン法

- 新薬の作用メカニズム探索：メカニズムの推定により価値向上（安全性、効果の要因を推定）

ドラッグデザイン

- 動物実験等から得られたデータと経験をもとに新薬をデザイン

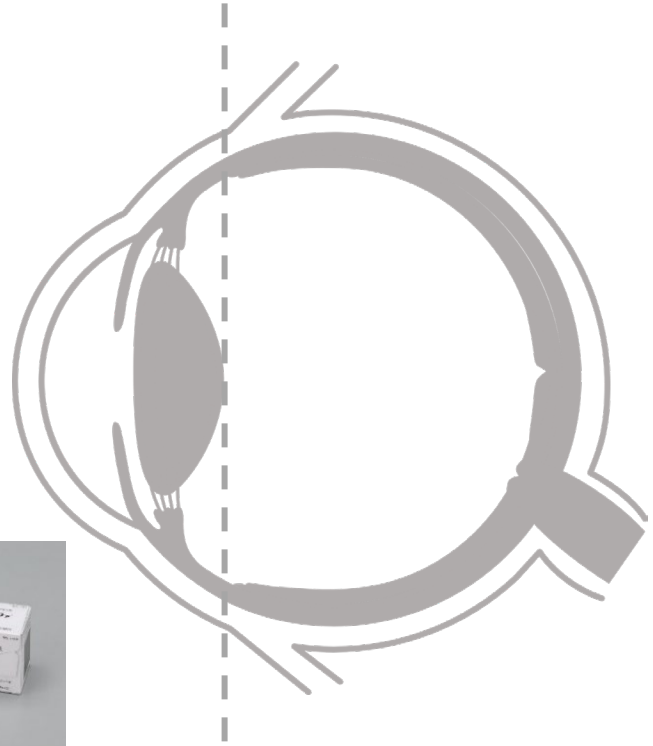
化合物ライブラリー

- 長年の研究から蓄積された良質な化合物ライブラリー

上市品累計使用本数

前眼部

後眼部



- 緑内障：**日本の失明原因第１位**
  - グラナテック®
  - グラアルファ®





- 硝子体手術：**失明に至る重篤な疾患**

世界76ヶ国で使用

  - ILM-Blue® 、TissueBlue™
  - MembraneBlue-Dual®



上市品（4製品）の使用本数：

2,000万本超

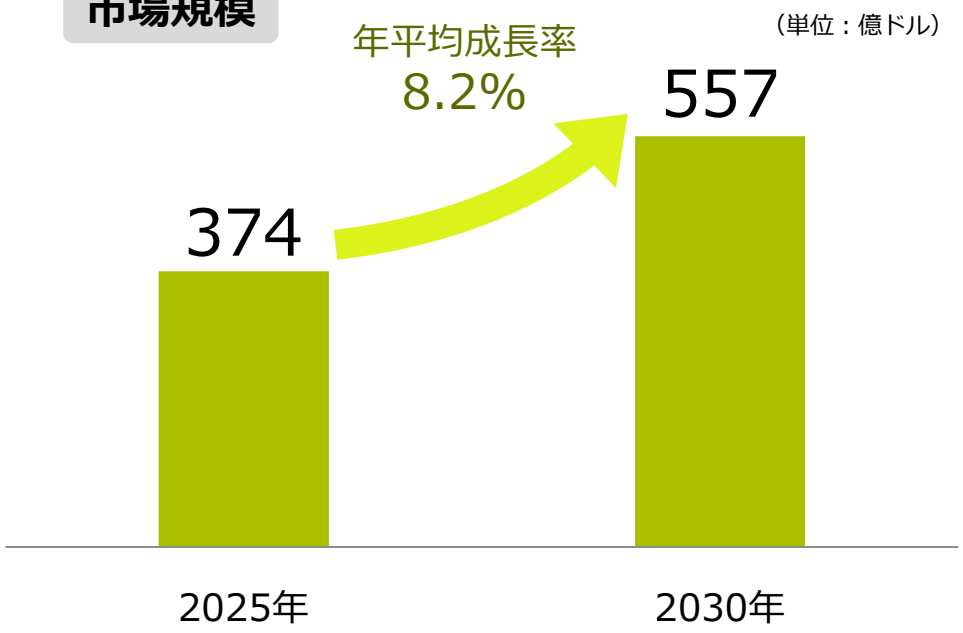
※当社推計

眼科領域の市場ポテンシャル

- ✓ 世界の眼科用医薬品市場は拡大が見込まれており、治療未確立分野、現行治療が患者様の期待に十分応えきれていない分野等、多くのポテンシャルが存在
- ✓ 緑内障治療剤は、眼科用医薬品市場の約2割を占める

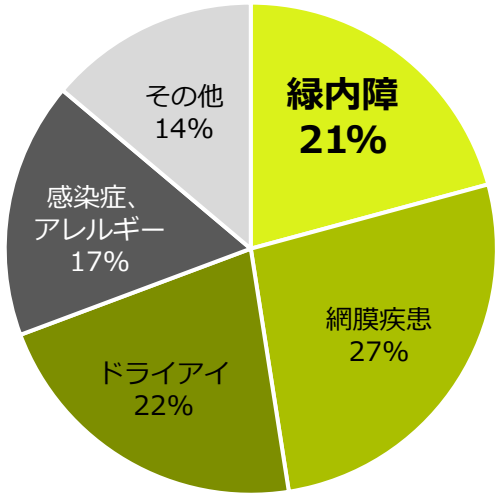
世界の眼科用医薬品市場

市場規模



出所：株式会社グローバルインフォメーション
「眼科薬：市場シェア分析、産業動向・統計、成長予測（2025~2030年」

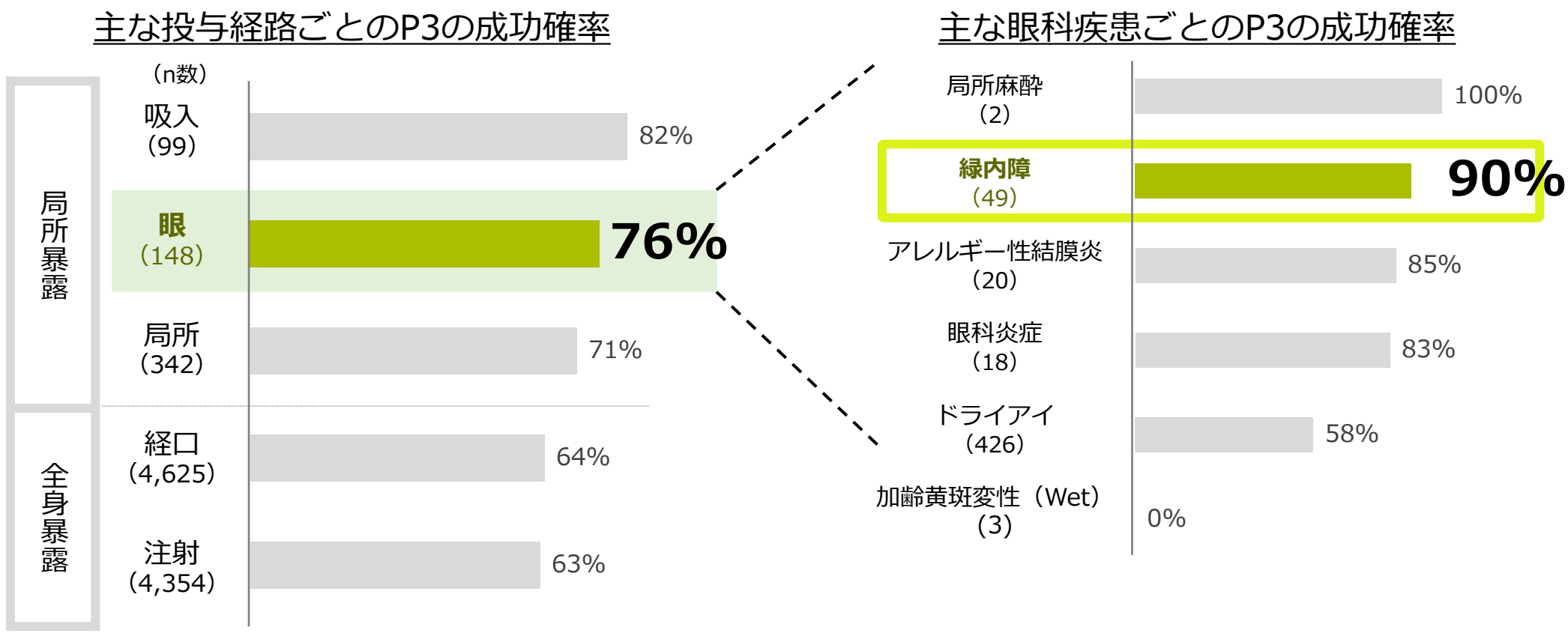
対象疾患別 2025年



出所：Coherent Market Insights, Ophthalmic Drugs Marketより当社算出

眼科領域の成功確率

✓ 局所暴露は全身暴露よりもP3成功率が高く、眼では76%。眼を投与経路とする眼科疾患の中でも、緑内障は成功率が高い



出所：Evaluate Pharma（2023/12/20時点）よりアーサー・ディー・リトル/グロース・キャピタル作成。対象製品はNME（Patented Compound）

開発パイプライン一覧

開発品名	対象疾患	地域	P1	P2	P3	申請	承認	上市	パートナー
H-1337	緑内障	日 米			日本先行で臨床試験準備				日本他オプション SENJU
H-1129	免疫異常を基盤とする角結膜疾患治療薬	日		P2開始でPMDAに相談予定					—
DW-5LBT	帯状疱疹後の神経疼痛	米							（共同開発） MEDRx
DWR-2206	水疱性角膜症	日 中			中国は臨床試験開始を計画				（共同開発） ActualEyes
K-321	フックス角膜内皮変性症	米 EU							Kowa
DW-1002	眼科手術補助剤（染色）	米							DORC
		日							わかもと製薬株式会社
DW-1001	非開示	日							NEVER SAY NEVER ロート製薬

・・・眼科疾患のパイプライン

※H-1337の米国は、P2b試験まで終了し良好な結果を得ていますが、日本の開発を先行いたします。

2. 各パイプラインの状況、研究活動

注力その１：緑内障治療薬 H-1337



緑内障とは

- ✓ 眼圧上昇により視野が狭くなる病気
- ✓ 40歳以上の20人に１人が発症、診断された人の**60%弱が自覚症状なし**

日本における緑内障

日本人に多い視覚障害の原因疾患*

順位	疾患名
1	緑内障
2	網膜色素変性症
3	糖尿病網膜症
4	加齢黄斑変性症

<見え方のイメージ> ※



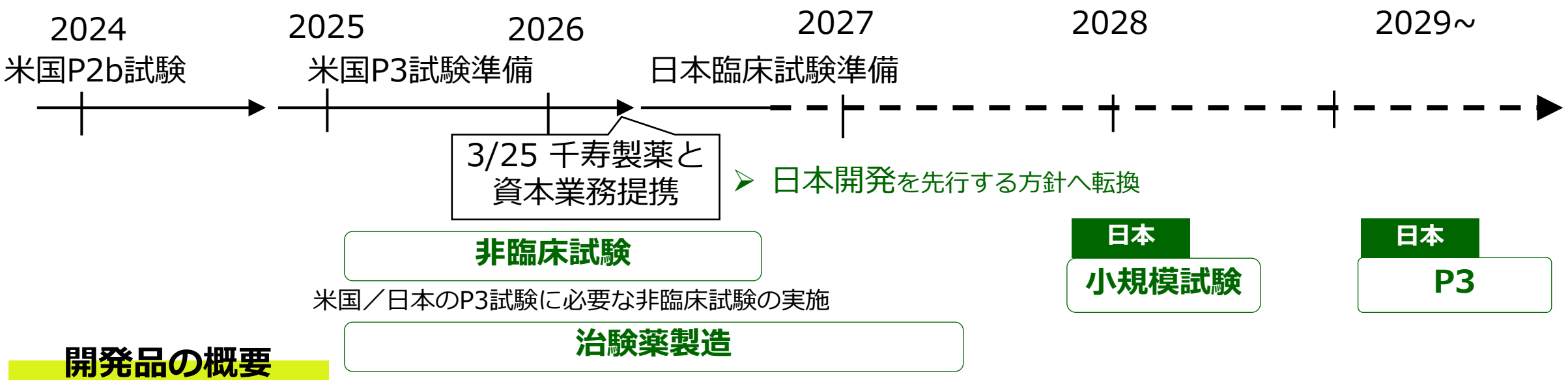




※日本眼科医会, https://www.gankaikai.or.jp/info/detail/glaucoma.html,緑内障ってどんな病気？

*出典：Matoba, R., Morimoto, N., Kawasaki, R. et al. A nationwide survey of newly certified visually impaired individuals in Japan for the fiscal year 2019: impact of the revision of criteria for visual impairment certification. Jpn J Ophthalmol 67, 346–352 (2023). https://doi.org/10.1007/s10384-023-00986-9

緑内障治療剤 H-1337の概要と進捗



開発品の概要

- 点眼剤
- 第二選択薬のファーストチョイス
- 薬剤タイプ：低分子、マルチキナーゼ阻害剤
- 競合薬：ネタルスジル（米国：Alcon・2018年上市、日本：参天製薬・2026年上市）

【現在の状況】

✓ 2025年米国Phase2b終了、結果良好。千寿製薬とのオプション契約を受けて、国内臨床試験を準備中。
✓ 2026年9月、開発計画を公表
- 千寿製薬との協力関係の下、必要な非臨床試験の実施、試験デザインの検討中
- 米国Phase3については、開始時期を未定とし日本の開発状況を踏まえて改めて検討

H-1337のポテンシャル（第二選択薬としての評価）

【ROCK阻害剤の比較】

	点眼回数/ 眼圧下降値	副作用
H-1337 (ROCK阻害)	**1日1回/ 6~7mmHg**	**・充血：43.4%　（P2b: ~4週） ・長期投与の副作用は不明**
リパスジル※1 (ROCK阻害)	1日2回/ ~4mmHg	・充血：69% ・長期投与においてアレルギー性結膜炎・眼瞼炎の発現頻度が高まる傾向
ネタルスジル※2 (ROCK阻害)	1日1回/ ~5mmHg	・充血：53% ・渦状角膜症：約20%
【参考：第一選択薬】 ラタノプロスト※3 (PG)	1日1回/ 6~8mmHg	・虹彩・眼窩周囲組織（眼瞼）の色素沈着、まつ毛の変化 ・充血：8%

※1: 添付文書 グラナテック点眼液0.4%
※2: Label of RHOPRESSA®
※3: Label of XALATAN®

【差別化ポイント】

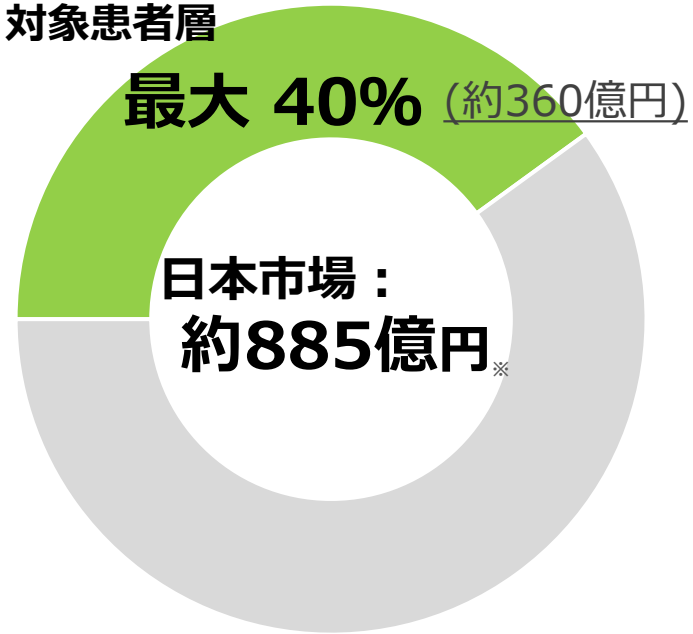
Efficacy
強い眼圧下降効果
1日1回投与で 6～7mmHg の眼圧下降

Safety profile
安全性プロファイルへの期待
充血は認められるものの、長期投与時の安全性を今後確認

Usability
第二選択薬としての使いやすさ
PG関連薬で効果不十分な患者への追加・切替候補

「効果」と「使いやすさ」の両立を目指す
次世代ROCK阻害剤

日本市場と収益ポテンシャル



想定シェア（ピーク時）別のイメージ

日本市場に占める割合	製品売上	目標と参考値	期待ロイヤリティ（当社収入）
20%	約180億円	◀ グラナテック、グラアルファの承認時ピーク売上高合計	大きく貢献 目標：25億円/年
10%	約90億円		さらに拡大 15億円/年
7.5%	約68億円	◀ グラナテックの承認時ピーク売上高	拡大 10億円/年
5%	約45億円	◀ 初期の浸透イメージ ◀ ネタルスジル（競合薬）	発生 7億円/年

※ 厚生労働省「第10回NDBオープンデータ」を基に当社算出

H-1337の成長ポテンシャル

国内単剤市場の価値を起点に、配合剤・海外展開が中長期的なアップサイドとなる

現在の価値の起点　　**将来のアップサイド**

Base

日本市場

H-1337単剤



価値の起点

- 米国データを活用し後期開発からスタート
- 日本での開発期間短縮
- P1/P2相当の国内試験費用を抑制

Option 1

配合剤

- 患者利便性の向上
- 国内獲得シェアの拡大
- オプション行使後の開発費はパートナー負担

国内単剤の次の価値創出

Option 2

海外展開

- 米国開発・導出機会
- アジア・欧州での展開余地
- 新たなロイヤリティ機会

グローバルアップサイド

日本単剤 → **配合剤** → **海外展開** → **価値最大化**

注力その２：戦略的ポートフォリオ形成

ポートフォリオ型ベンチャー



「**収益性**」と「**事業基盤の安定**」の両立を目指す

パイプラインポートフォリオ

- タイプの違うパイプラインを組み合わせて事業基盤を構築

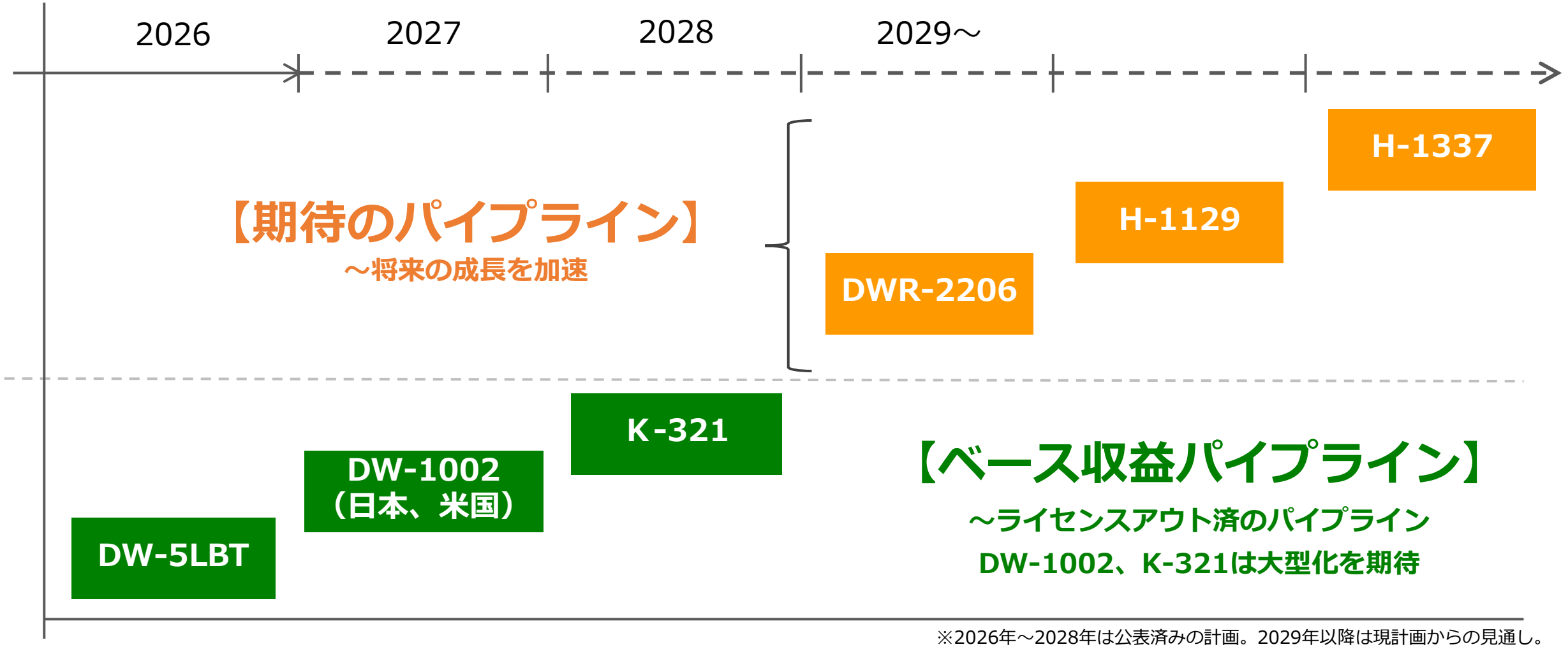
上市薬	H-1337 （自社）	DWR-2206 （共同、再生）	H-1129 （自社、希少）
K-321 （自社）	DW-1002 （導入）	DW-5LBT （共同）	DW-1001 （導入）

- 医薬品の開発にはリスクが伴うことから、**複数のパイプライン**を保有し、**事業リスクを分散**
- 自社創薬や他社からの導入など、多様なパイプラインが混在しており、**収益機会の増加**につながる
- 単独のパイプラインの開発と比較すると**コストの増加**が見込まれる

⇒**再生医療等製品**の取組や**オーファン/リポジショニング**など開発で対応（例：DWR-2206、H-1129）

具体的な取組

【開発パイプラインの上市時期】



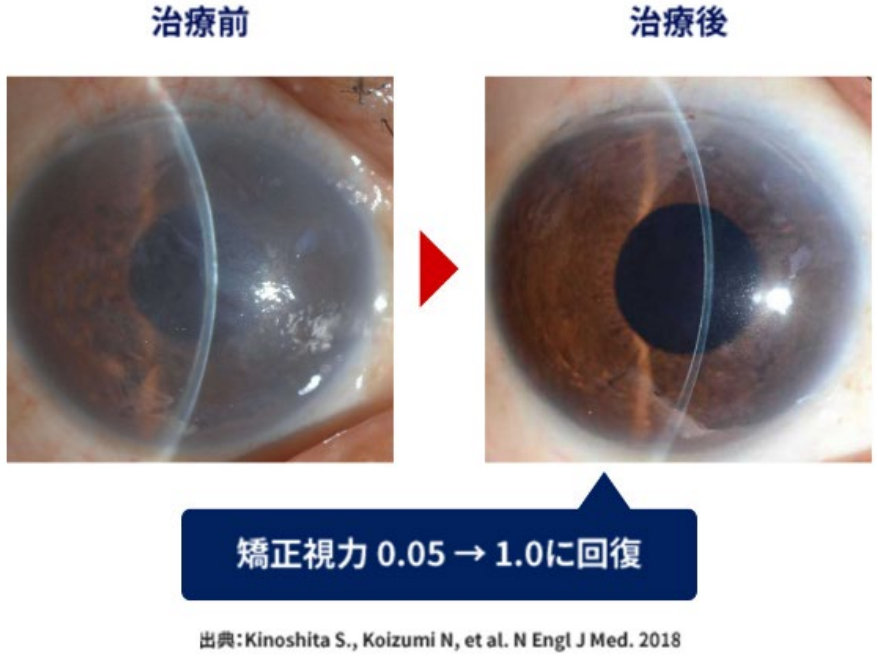
※2026年～2028年は公表済みの計画。2029年以降は現計画からの見通し。

DWR-2206の優位性

✓ 再生医療等製品であり高い薬価が期待できる

主要な**競合品**　ビズノバ　（Aurion Biotech, Inc.）	
薬価（日本）	9,464,500円
販売規模予測（日本）	・当医療機器使用患者数：160人（国内患者数は7,000～10,000人※当社推計） ・予測販売額：約15億円（ピーク：6年目）

✓ 臨床研究での成功実績

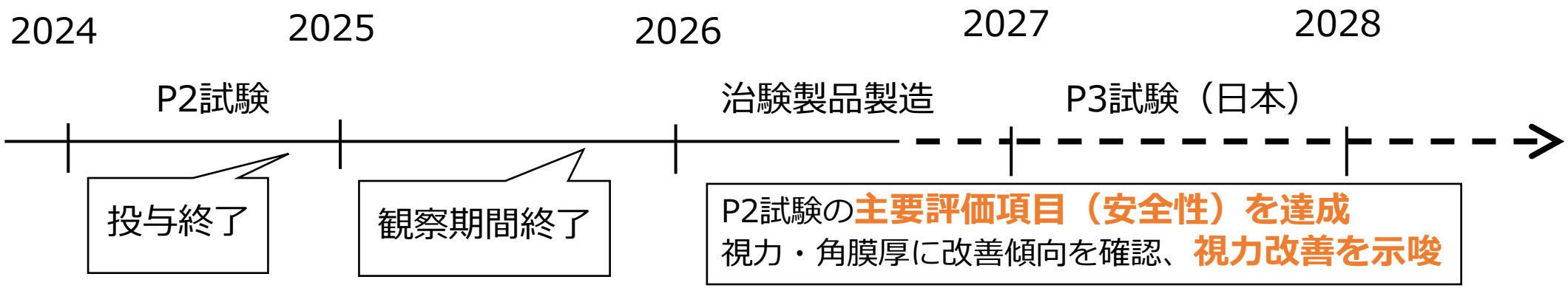


アクチュアライズ社のHPより

- 2013年、京都府立医科大学附属病院にて、世界初の細胞注入療法の試験実施
- **50名を超える患者さんの治療に成功**し有効性と安全性を確認
- **視力の回復も理想的**

※アクチュアライズ株式会社のHPより

再生医療用細胞製品 DWR-2206



開発品の概要

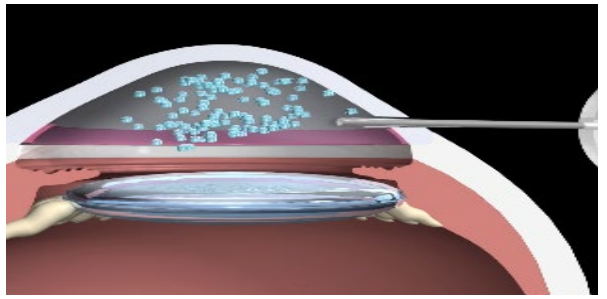
- 培養したヒト角膜細胞の注入
- 対象疾患：水疱性角膜症（角膜内皮細胞が障害を受け、角膜浮腫が起こり、白く濁ることで視力が著しく低下する病気）
- 競合薬：ビズノバ（Aurion Biotech、2024年日本上市）



- 1人のドナーから
  角膜内皮細胞を培養
- 50-80人分の製品を作る

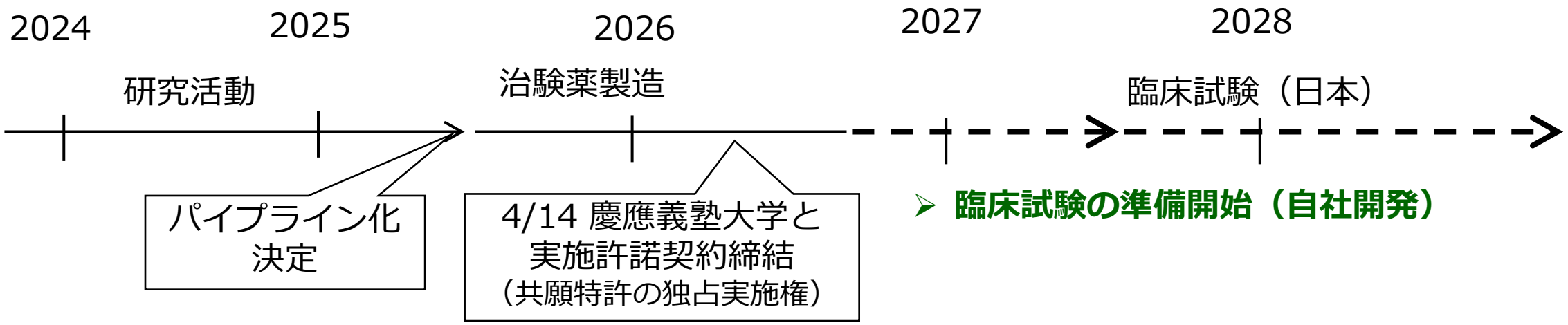


凍結角膜内皮細胞製剤



前房内に注入し、角膜内皮組織を再生

免疫異常を基盤とする角結膜疾患治療薬 H-1129



➢ **臨床試験の準備開始（自社開発）**

【今後の見通し】

- 臨床試験のプロトコール決定
  - PMDAへP2開始で相談
  - オーファン指定申請
- 治験薬製造

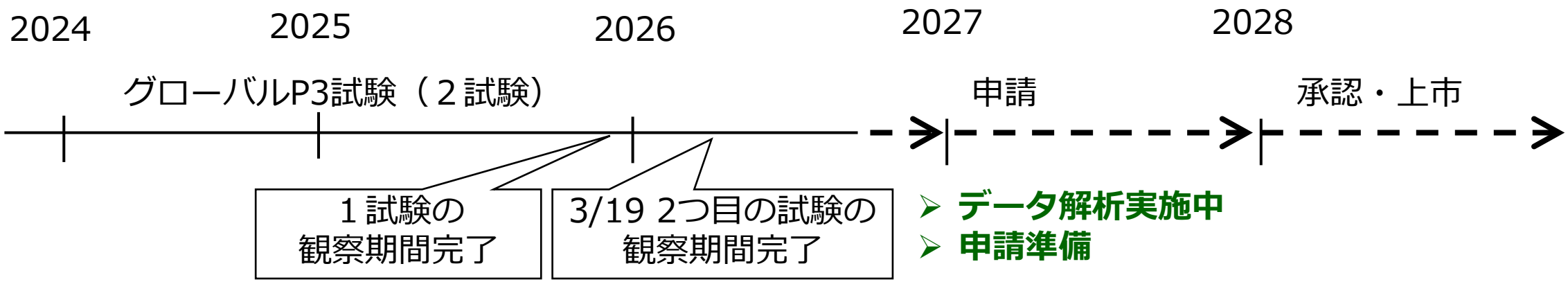
➡効率的な開発を目指す

【特徴】

- 自社創製のRhoキナーゼ阻害剤

➢2012年　緑内障治療剤として開発開始
➢2019年　P3試験で開発中止
→リポジショニングを検討
　病態モデル（動物）において、顕著な有効性あり
→免疫異常を基盤とする角結膜疾患治療薬の開発を決定
　（対象疾患は、競合戦略上非開示）

フックス角膜内皮変性症 K-321 リパスジル適応拡大



【今後の見通し】

- Ｐ3試験終了後、フックス角膜内皮変性症患者を対象に、まずは米国での上市を目指す
- 米国での上市後は、欧州展開を検討する
- 導出先の興和にて開発推進、当社の対応・資金負担なし
- 上市後、データ保護期間満了までロイヤリティを受領
  ※緑内障治療剤とは実施料率は異なる

【成功確率と製品大型化の可能性】

＜臨床報告＞DSO手術後リパスジル塩酸塩を点眼した結果

- 23眼中22眼で角膜クリアランスが見られた
- 視機能が改善した

出典：Descemet Stripping Only Supplemented With Topical Ripasudil for Fuchs Endothelial Dystrophy12-Month Outcomes of the Sydney Eye Hospital Study; Cornea, 2020

- 患者が多く、既存の治療薬なし
  - 欧州：約16百万人、米国：約6百万人

眼科手術補助剤 DW-1002 BBG



➢ **日本、米国ともに申請に向けた準備実施**

【今後の見通し】

日本（導出先：わかもと製薬株式会社 ）

- 米国承認データの利用について規格・品質に関する課題をPMDAと相談中

※当社予想に基づく開発計画です。

米国（導出先： DORC ）

- FDAより小規模試験実施の指示があり、実施中

【市場性】

日本

・硝子体手術10万件※1

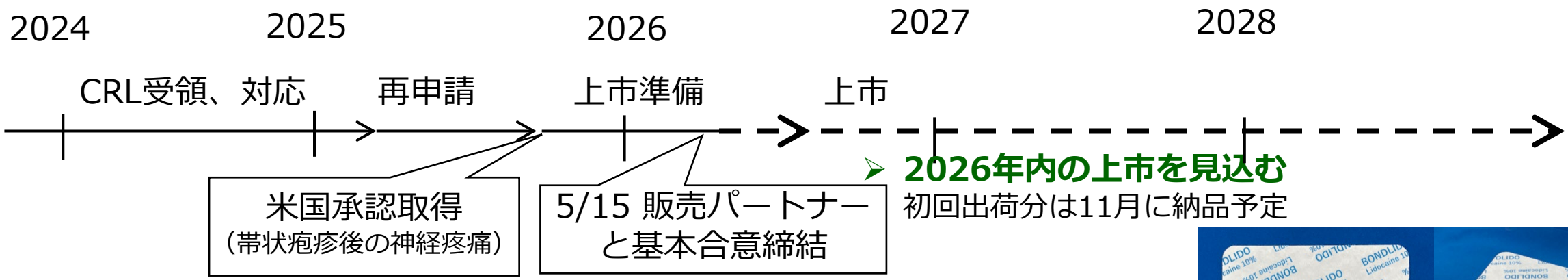
・対象となる白内障手術120万件※2の10%以下※1

（ご参考）1本あたりの単価

欧州／CEマーク	55ユーロ
米国／医薬品	140ドル

※1：当社調べ（関係者等へのヒアリングによる）
※2：令和元年社会医療診療行為別統計,厚生労働省,令和元年6月審査分

神経疼痛治療薬 DW-5LBT（Bondlido）



➢ **2026年内の上市を見込む**
初回出荷分は11月に納品予定



【今後の見通し】

- 販売パートナーの決定
- 上市後、メドレックスから成果分配金を受領

➡当面の安定的な収益基盤の確保を期待

【製品の差別化】

- 少量（30%弱）のリドカインで同等の効果
- テープ剤ゆえの使い勝手の良さ
  （皮膚刺激性が少なく、貼付力の維持）

【市場性】

- **ブロックバスターであったLidoderm®（リドカインパップ剤、ピーク時売上＄1 billion超）の市場がターゲット**
- 米国リドカイン貼付剤市場：$162 million（2024）
- Lidoderm Generic製品のシェア
  ：数量約9割、金額約6割
- 類似先行品ZTlido（2018年上市）
  ：Net Sales $52 million（2024）

※メドレックス公表資料より

各開発パイプラインの優位性

【K-321】治療ニーズの高い疾患領域

既存薬が存在しない、患者数が多い
→製品大型化の可能性

【DWR-2206】高い治療価値と事業性

対象疾患の根治を目指すアプローチ

高薬価ポテンシャル

凍結製剤による高い利便性

【DW-5LBT】競争優位性のあるプロファイル

先行品に比して優れたプロファイル

【DW-1002】手術補助領域の独自ポジション

重篤な眼科疾患の手術を補助

代替となる既存薬が存在しない

【H-1129】効率的な開発

既存データ活用による開発の効率化

希少疾患指定による開発期間短縮の可能性

2026年上期からの共同研究実績（開示分）

4/1　乳酸菌エクソソームを用いた眼疾患治療薬創出に向けた共同研究

LABバイオテック社が有する乳酸菌由来のEVsを用い、当社は眼疾患への有効性を評価

化合物	LABバイオテック社の乳酸菌EVs
対象疾患	眼疾患

新薬候補品の創出に向けた研究活動

① 眼科領域

眼科の知見を活かし、前眼部・後眼部の全てを対象



眼炎症　　遺伝子治療／神経保護
ドライアイ　白内障etc

② キナーゼ阻害剤

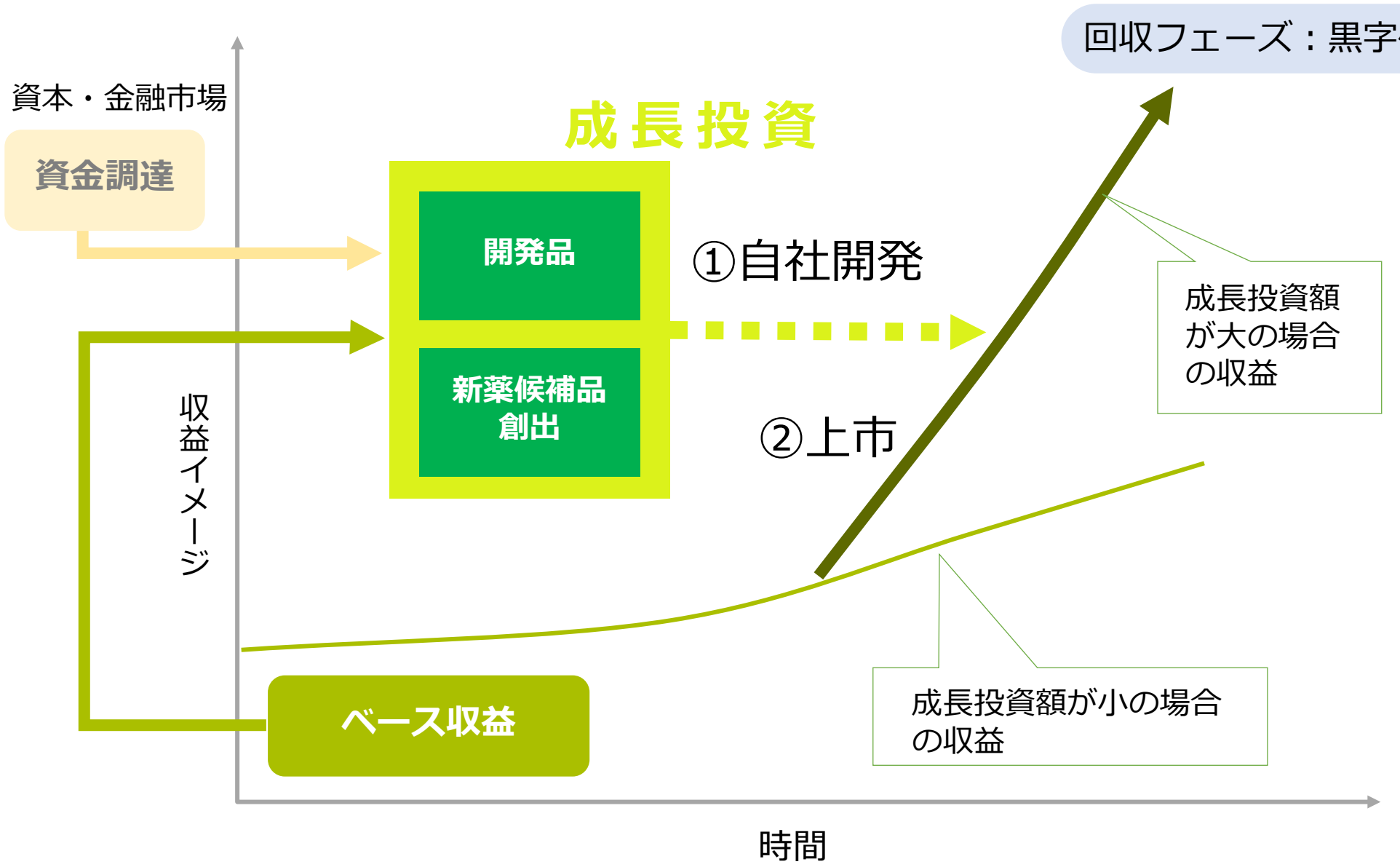
強みであるキナーゼ阻害剤の創製と開発ノウハウを活かし、各疾患のメカニズムに注目



統合失調症　　生活習慣病
抗がん剤　　ED治療薬etc

3. 成長戦略

成長戦略の収益イメージ



自社開発品

自社で臨床POCまで取得した開発品

- 開発費負担：高
- 収益率：高
- 開発リスクが高い

ベース収益品

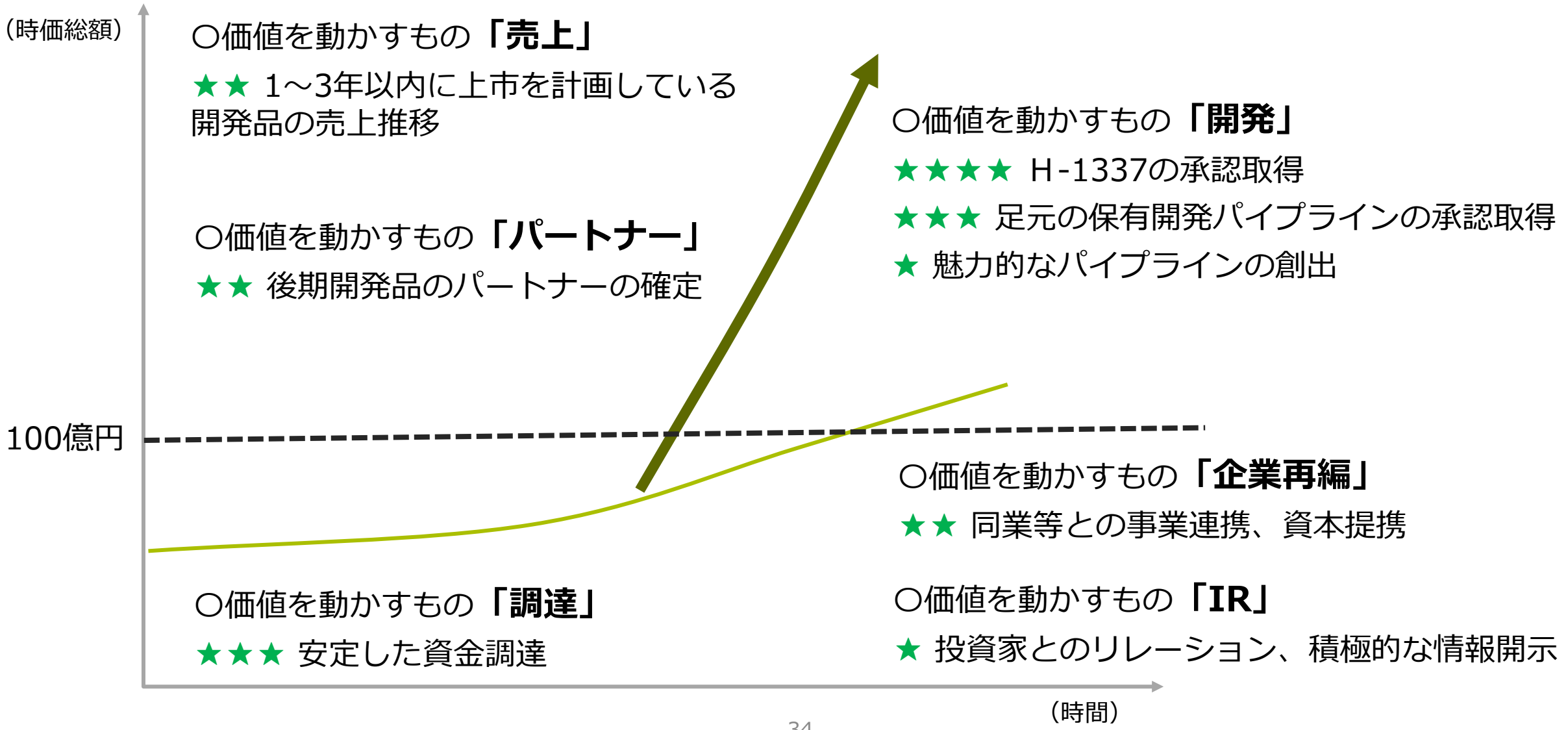
早期導出した開発品や後期共同開発品

- 開発費負担：低
- 収益率：低
- 導出先との契約や開発方針の影響を受ける

企業価値を大きく動かすもの

インパクト	内　容	
★★★★	**開発**	・H-1337の承認取得
★★★	**開発**	・足元、すべての保有開発パイプラインの承認取得
	調達	・安定した資金調達
★★	**パートナー**	・パートナーが付いていない後期開発品のパートナーの確定
	売上	・1～3年以内に上市を計画している開発品の売上推移
	企業再編	・同業等との事業連携、資本提携
★	**開発**	・研究テーマが進捗し、魅力的な開発パイプラインの創出
	IR	・投資家とのリレーション、積極的な情報開示

ロードマップ（時価総額の推移予想）



○価値を動かすもの**「売上」**

★★ 1～3年以内に上市を計画している開発品の売上推移

○価値を動かすもの**「パートナー」**

★★ 後期開発品のパートナーの確定

○価値を動かすもの**「開発」**

★★★★ H-1337の承認取得

★★★ 足元の保有開発パイプラインの承認取得

★ 魅力的なパイプラインの創出

○価値を動かすもの**「企業再編」**

★★ 同業等との事業連携、資本提携

○価値を動かすもの**「調達」**

★★★ 安定した資金調達

○価値を動かすもの**「IR」**

★ 投資家とのリレーション、積極的な情報開示

4. 2026年12月期 見通し

2026年に発生が見込まれるイベント

開発品		提携先	地域	イベント
DW-5LBT		（共同開発）MEDRx		**販売パートナー決定、上市** 2026/5米国Terrain社と基本合意
DWR-2206		（共同開発）ActualEyes		**臨床試験開始**
K-321	リパスジル塩酸塩水和物	Kowa		**グローバルP3試験（2つ目）の観察期間完了** ✓ 2026/3達成
DW-1002	ブリリアントブルーG（BBG）	DORC		**申請**
		わかもと製薬株式会社		**申請**

開発パイプラインの進捗計画　毎年1製品の上市

パイプラインの名称等		地域	2025	2026	2027	2028
H-1337	緑内障治療剤				小規模用量確認試験	2029～ P3開始
H-1129	免疫異常を基盤とする角結膜疾患				臨床試験	
DW-5LBT	帯状疱疹後の神経疼痛		再申請 承認	上市		
DWR-2206	水疱性角膜症		P2		P3	
				臨床試験		
K-321	フックス角膜内皮変性症		P3		申請	承認 上市
DW-1002	内境界膜染色 水晶体前嚢染色			申請	承認	上市
	内境界膜及び網膜上膜染色			申請	承認	上市

※上記計画は、ライセンスアウト先が想定する開発計画もしくは当社予想に基づく開発計画であり、実際の開発進捗と相違する可能性があります。
※DW-1001（眼科用治療剤）は、ライセンスアウト先のロート製薬の方針により、今後の開発計画を検討中のため記載しておりません。
※ H-1337の米国は、P2b試験まで終了し良好な結果を得ていますが、日本の開発を先行いたします。

2026年12月期通期連結業績予想（2026年2月13日公表）

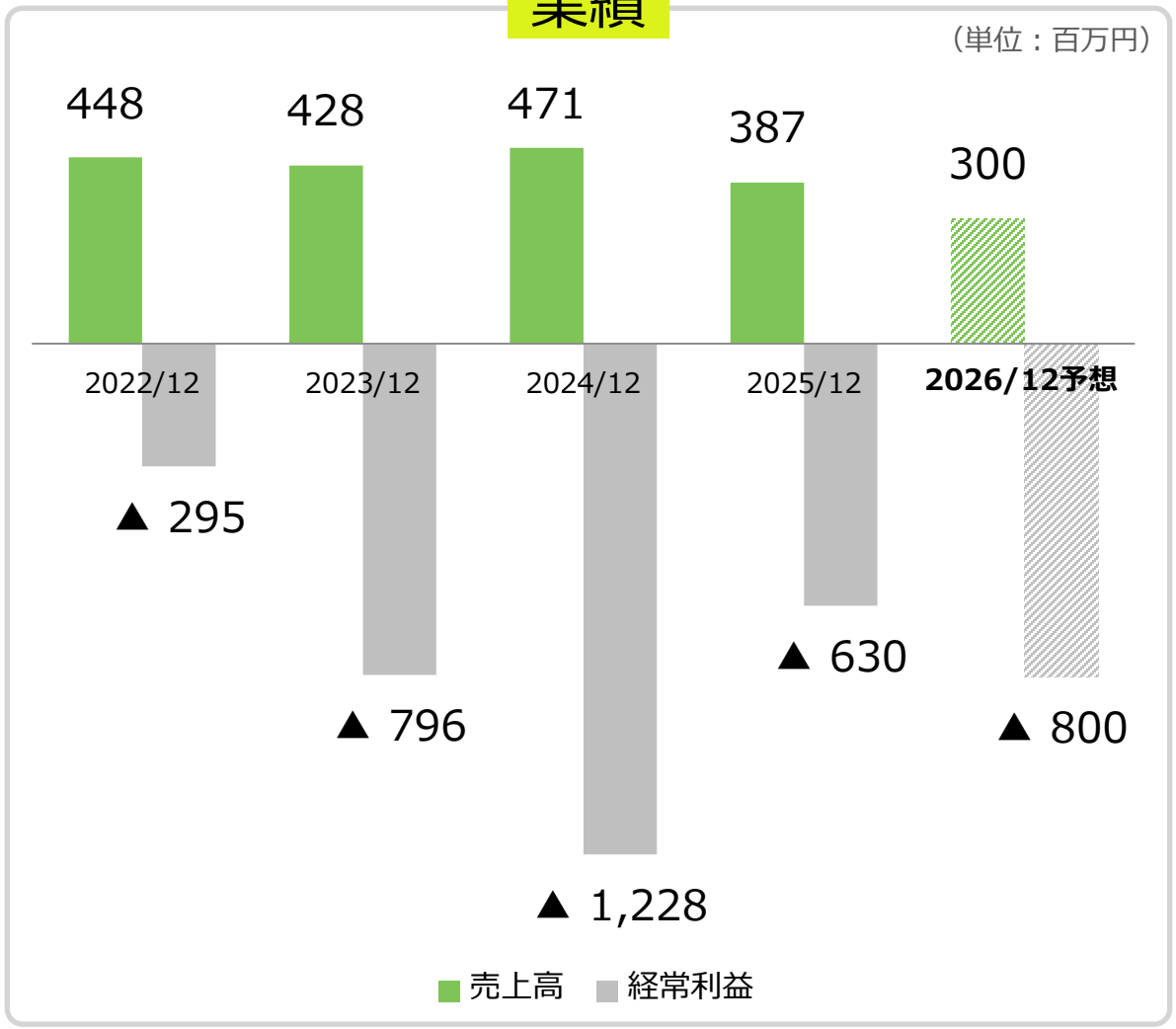
（単位：百万円）

	2025年12月期	2026年12月期		
	通期実績	通期予想	対前期増減額	主な要因
売上高	387	300	△87	• 主に、DW-1002、グラアルファのロイヤリティ収入を計上 • DW-1002（日本）のマイルストーン収入を見込む • DW-5LBTは合理的な見通しが困難のため、計上なし • DW-1002（欧州）のロイヤリティ終了により減収見込み
営業損失	△619	△780	△161	• 研究開発費は増加を見込む　※下段参照 • その他販管費は、概ね前年並み
経常損失	△630	△800	△170	
親会社株主に帰属する当期純損失	△632	△800	△168	

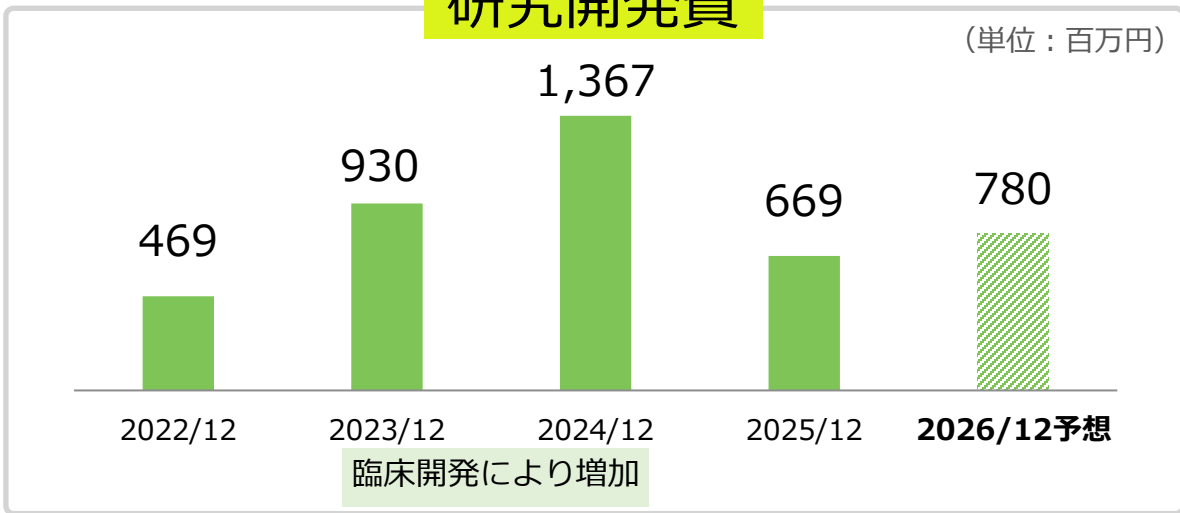
研究開発費	669	780	111	• 主な内訳 - H-1337、H-1129の臨床試験に向けた開発費用（毒性試験、治験薬製造etc） - 新薬創出に向けた研究費用（自社創薬・共同研究）は前期比増加

業績の推移（連結）

業績



研究開発費



現預金



※2025/8/1～、第13回新株予約権の行使開始（100,000個）

資金調達の状況

✓ 先行投資を行うため、目的別に市場調達、資本提携、銀行借入を活用

市場調達

- ✓ 第13回新株予約権：調達総額 **925百万円**（2025年8月～2026年９月、調達完了）
  第14回新株予約権：発行時概算調達額 **3,089百万円**（2026年10月～2029年9月末まで）
  （資金使途：H-1337の開発資金）
- ✓ 第2回無担保社債：**500百万円**（2026年10月）第14回新株予約権の行使に応じて繰上げ償還
  （資金使途：H-1337の開発資金）

資本業務提携に伴う出資受入

- ✓ 千寿製薬との資本業務提携に伴う第三者割当増資：**200百万円**（2026年3月）
  （資金使途：H-1337の開発資金）

銀行借入：主に、導入費用や後期開発品の開発費として調達

- ✓ 当初借入額：100百万円
  （資金使途：DW-5LBTのマイルストーン支払資金）

今後のポイントと取組み方針

業績	売上高：上市品のロイヤリティ受領期間満了による減収 **➡次の収益基盤に繋がる開発品は仕込み済、毎年１製品の上市を目指す** 2026年：DW-5LBT、2027年：DW-1002、2028年：K-321
開発パイプライン	・H-1337、H-1129、DWR-2206の開発推進 ・ライセンスアウト済みパイプラインの開発支援 **➡効率的な開発を推進しながら、重点パイプラインの価値最大化を目指す**
研究プロジェクト	次の新薬候補品の決定、次世代新薬を患者様に届ける仕組み **➡複数の候補品あり、収益機会の創出に向けた戦略的な選定** **➡新薬候補品を継続的に生み出す創出サイクルの始動**
資金調達	第14回新株予約権の最大限の調達、計画通りの上市サポート **➡H-1337へ経営資源集中（成長投資継続）、今後の資金需要の見極め**
時価総額100億円	時価総額44億円（2026年9月末） **➡上記推進により達成を目指す、自社の事業推進に加えて事業・資本提携も視野に検討**

IRスケジュール



IR活動の目的

IR活動強化→ 理解の深化（研究×事業×資金）→ 投資家層の拡大・定着 → 中長期的な企業価値形成

年間のイベント

- 決算説明会：年2回（2、8月）
  - ハイブリッド開催、アーカイブ配信、書き起こし、質疑応答の公表　※いずれもHP掲載
- 個人投資家向け会社説明会：年数回
  - 会場での直接対話、WEBによる全国発信
- 株主向けの会社説明会：株主総会後
- 機関投資家との面談：依頼に応じて
- スポンサードレポート発行：四半期、随時

IRニュースメール配信登録のご案内

✓ **当社のプレスリリースや決算発表等の情報をタイムリーにお知らせいたします。**



✓ **「事業計画及び成長可能性に関する事項」では、当社についてより詳しくご説明しております。**





「日本発の画期的な新薬を世界へ」

デ・ウエスタン・セラピテクス研究所
D.WESTERN THERAPEUTICS INSTITUTE

本資料の取扱いについて

- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社への投資勧誘を目的としておりません。
- 投資のご検討にあたっては、投資者ご自身の判断において行われるようお願いいたします。
- 本資料は正確性・公平性を期し慎重に作成されたものでありますが、当社の有価証券への投資判断にあたって必要となるすべての情報が含まれているものではなく、また、本資料に記載されている情報の真実性、正確性又は完全性について当社として保証するものではありません。
- 本資料中の業績予想並びに将来予測は、本資料作成時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれています。そのため、実際の結果は事業環境の変化等の様々な要因により、将来見通しとは大きく異なる可能性があることにご留意ください。
- 本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報等から引用したものであり、当社はかかる情報の正確性、適切性等について検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。
- 本資料の使用又は内容、情報等に関して生じたいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いかねます。